

# 事業計画書

(2025年4月1日~2026年3月31日)

## 1. 「語らい座 大原本邸」事業

### (1) 入館者数等

「語らい座 大原本邸」の入館者数は、コロナ禍以降、順調に増加しており、2025年度は約47,000人となる見込み。大原孫三郎、總一郎の業績を広く伝える場として、説明体制の充実を図りながら、一層の入館者数の増加を図る。目標入館者数を50,000人とする。

入館者数増加策として、昨年より倉敷市「いきいきパスポート」の利用により、小・中学生の入館料が無料となっており、大原孫三郎について学ぶ小学校4年生を中心に、学校訪問も行い、積極的な誘致を行う。

### (2) 教育支援事業

有隣会の名称の由来である「徳は孤ならず、かならず隣あり」にならい、世の中にとって正しいことは何かを考え、実践していく人たちを「隣人」として応援し、互恵的に学びあう事業展開を目指す。

#### ①くらしき有隣学講座

大原家に通底する社会貢献のその後の展開を歴史的にたどることで、地域との「つながり」の深さと長さを再確認することをめざす。大原家の偉業を伝えるだけでなく、共に学びを分かち合い、語り合う場として、多彩な内容を通年で6回程度開催する。

開催内容はアーカイブし、次世代の歴史探求に寄与できる形を検討する。

<開催予定>

開催日	演題（仮称）	講師
2025年 4月	語らい座 大原本邸のご紹介	門利 博子 (語らい座 大原本邸 館長)

5月	大原美術館の戦争体験について	吉川 あゆみ ((公財)大原芸術財団 上席研究員・学芸員)
7月	特別展解説	水島 博 ((公財)有隣会 学芸員)
9月	倉敷民芸館の歴史	森原 絵理香 ((公財)倉敷民芸館 学芸員)
11月	倉敷考古館よもやま話	伴 祐子 ((公財)大原芸術財団 研究員・学芸員)
2026年 1月	特別展解説	水島 博 ((公財)有隣会 学芸員)

## ②語らい座研修

### a.学校団体向け

主に倉敷市内の小中学校に、地域を知るための学習として、語らい座大原本邸への入館を促し、大原家の歴史を伝えるレクチャープログラムを開催する。

教科書で出会う大原孫三郎の生家へ実際に足を運ぶことで得られる体験学習を通じて、シビックプライド醸成の一助になることを目指す。

### b.企業向け

主に倉敷市内、岡山市内企業の社員向けの研修やインセンティブツアーとして、大原家の歴史を伝えるレクチャープログラムを開催する。

倉敷や大原家の歴史を知り、企業の存在価値や持続可能性に思いをはせる機会とする。

また研修の目的によって、関連施設(大原美術館、倉敷考古館、倉敷民芸館、倉紡記念館)の鑑賞や、ワークショップをアレンジし、大原家や倉敷の町が守り育てた文化に触れる機会を作る。

## ③その他

単なる記念館ではなく、発信の場としての展開をめざし、社会課題解決を目的としたシンポジウムなどへの場所の提供を行う。既存の価値を超えた多彩な価値の創出の一助になることを目指す。

### (3) 特別展の開催

次の2回の特別展を開催する。開催にあたっては事前周知を行うとともに、くらしき有隣学講座でのギャラリートークの企画等、来館者に大原家への関心、理解をより高めていただくよう努める。

開催日	名称
2025.7.1(火)～8.3(日)	大原家に残る書簡の数々 ～児島虎次郎と棟方志功からの書簡～
2025.12.23(火)～ 2026.2.2(日)	大原家に残る書簡の数々 ～大原家の人々の書簡～

## 2. 「第69回大原孫三郎・總一郎記念講演会」の開催

開催日時 2025.7.25(金)

16:00～17:00 高校生等とのプレセッション

18:30～20:00 記念講演会

開催場所 倉敷公民館大ホール

講師 近藤 誠一氏 (近藤文化・外交研究所代表、元文化庁長官)

演題 未定

## 3. 大原總一郎日記研究会

引続き大原總一郎日記研究会を大阪またはオンラインで開催し、読み進んだ日記を整理し、製本する。

また、倉敷にて日記研究会における成果発表の機会を設け(予定9月6日(土))、研究者・関係者の交流及び研鑽の一助とする。

## 4. 所蔵品の整理、調査、研究及び公開

大原家に関する江戸時代からの古文書や大原孫三郎・總一郎に関する書籍・書簡などの資料を分類・整理し、当会の事業に活用するとともに情報を研究者へ提供する。

また昨年度より整理済文書のデジタル撮影を始めており、本年度も継続実施する。

以上

## 資金調達及び設備投資の見込みについて

### 1. 資金調達の見込みについて

該当ありません。

### 2. 設備投資の見込みについて

該当ありません。